

結婚式（安達漢城）

楷老盟成捧祝腸 一門琴瑟百花芳
祖先照鑑如神在 俱禱隆隆家運昌

解説 結婚を慶賀する詩。

偕老 盟 成つて 祝腸を 捧ぐ

語釈 ※楷老 夫婦が仲良く共に老人になるまで暮らすこと。

※祝腸 腸 はさかずき。お祝いの酒を酌みかわすこと。

※琴瑟 「琴」は七弦の琴。「瑟」は大琴。二つの合奏でよりよい

音楽を奏でることから転じて、夫婦仲の良いこと。※照鑑 神仏が

明らかに御覧になっていること。※隆々 盛んなるさま。※昌 盛

と同じ。

一門の 琴瑟 百花 芳し

祖先 照鑑して 神 在すが 如く

通釈 共に白髪になるまで仲良く暮らそうとする結婚式の契りが

成立して、お祝いの杯を捧げる。ご一家の仲睦まじく、その様はこ

こに飾られた多くの花々のように馨しい。ご両家のご先祖も神々と

共にこの式を御覧になっていることだろう。私たちも皆、ご一家の

家運の益々盛んならんことをお祈りします。

俱に 捧る 隆々 家運の 昌んなるを